

# 経営比較分析表（令和2年度決算）

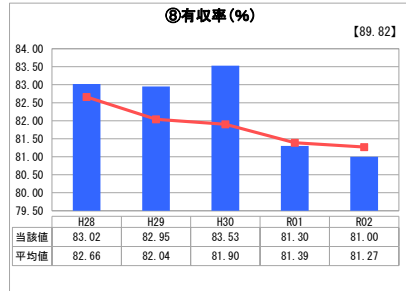
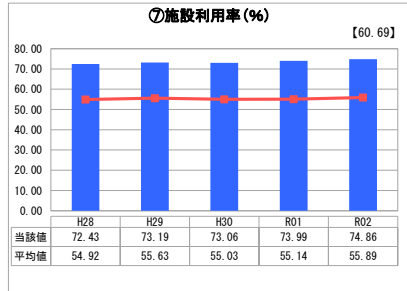
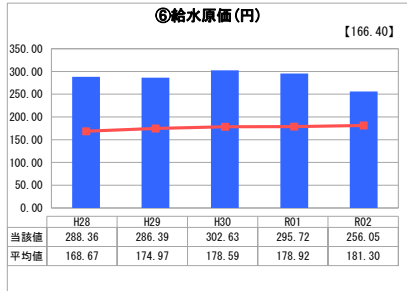
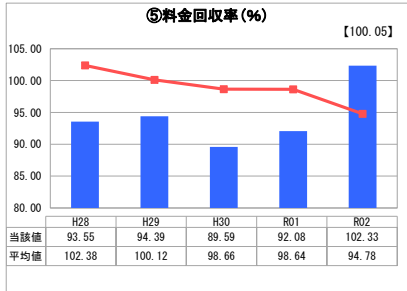
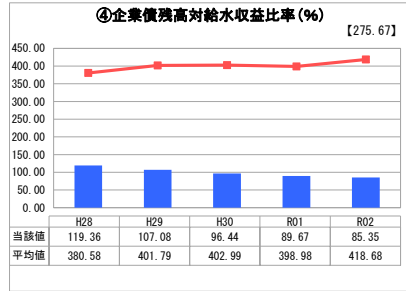
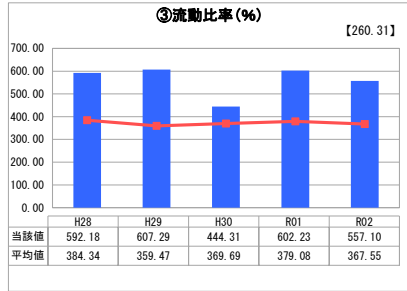
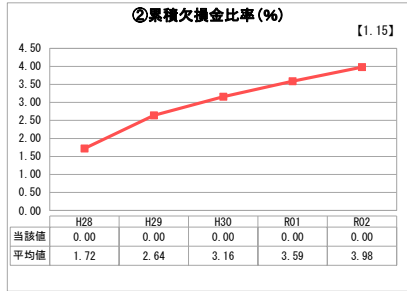
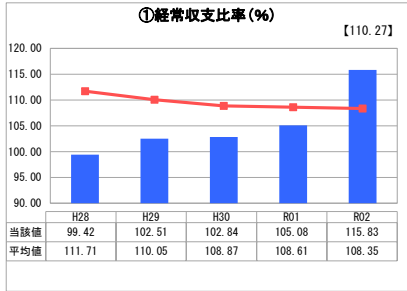
宮城県 角田市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家産料金(円)	
-	88.40	97.13	4,780	

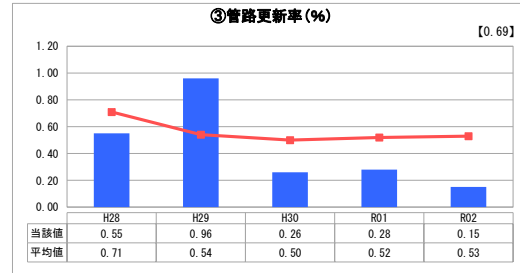
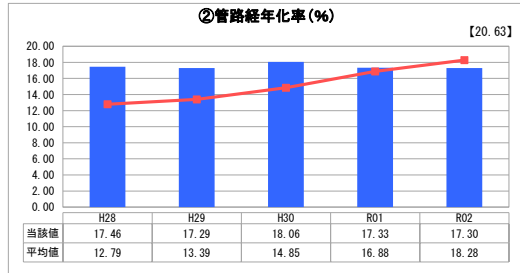
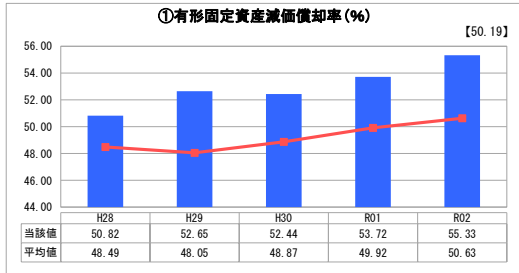
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
28,212	147.53	191.23
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
27,219	147.53	184.50

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和2年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析概

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率：令和2年度は100%を大幅に上回ったが、受水費単価の引下げによるところが大きい。今後、給水人口の減少等による水道料金収入の減少が見込まれる状況であり、継続的な黒字を維持するため、引き続き経費節減や財源確保に努める。

③流動比率：現時点で類似団体平均を上回っているが、今後の老朽管更新事業の推進により資金残高の減少が見込まれているため、財務安全性に留意した計画的な事業の推進を図る。

④企業債残高対給水収益比率：将来負担を考慮し企業債発行を抑えているため、類似団体平均を下回っている。今後、耐用年数を過ぎた老朽配水管の増加に伴いこれまで以上に管路更新事業を推進する必要があることから、企業債発行による資金確保と将来負担の抑制のバランスに留意する。

⑤料金回収率：令和2年度に100%を超えたが、後は水道料金の総体的な減少が見込まれることから、適切な料金水準を継続的に確保するため、さらなる経費削減を図るとともに、受水費水準の変動に合わせた料金水準の適正化を図る。

⑥給水原価：令和2年度も引き続き類似団体平均を上回っている。施設運営や事業の効率化策を積極的に進めることで低廉な水の供給ができるよう努める。

⑧有収率：近年の漏水件数の増加により有収率は低下傾向にある。漏水調査の頻度及び方法を見直し、迅速な漏水修繕に努めるとともに、適切な老朽管の更新事業を推進することにより漏水発生を抑制する。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率：類似団体平均を上回っているとともに減価償却率が年々上昇し、老朽化が進んでいる。これは浄水場等施設や配水管等管路の経年化が進んでいることによるものである。老朽配水管については、平成28年度から本格的に更新事業を行っているものの全体の管路延長が大きく償却率の低下には至っていない。今後、適切な資金計画も立てた上で、老朽管更新事業の加速化を図る。

③管路更新率：平成28年度・29年度と比較し管路更新率は下がっている。管路が老朽している状況を踏まえ、今後、適切な資金計画も立てた上で、老朽管更新事業の加速化を図る。

## 全体総括

ここ数年は経常収支比率が100%を上回るなど単年度で見ると、健全な経営状態を維持しているが、有収率が低下傾向であることや施設及び管路の老朽化が進んでいる状況であること、さらには後は給水人口の減少による給水収益の減少が見込まれることなど、経営環境の今後の見直しは厳しいことが予想される。将来にわたって安定的な事業運営ができるよう、さらなる施設運営や事業の効率化を進めるとともに、適正な料金負担の確保のための料金改定等も検討していく。